

琉球大学病院 放射線科の西江昭弘です。今年初めより琉球大学病院は宜野湾市西普天間に移設しました。新病院や新キャンパスでの勤務により気分も一掃され、やる気に満ちている今日この頃です。広報委員会への活動も3年目に突入し、沖縄県医師会の詳細も肌で感じられるようになりました。委員会は県全体の医療について学べる場として重要と考えており、今後も何らかの形で貢献できたらと思っています。

さて本題に入りますが、今月の沖縄県医師会報は常任理事の大屋祐輔先生の第17回沖縄県医師会新研修医のためのシンポジウム・歓迎レセプションに関する報告からスタートしました。沖縄県医師会の歓迎の気持ちだけでなく、先輩からのアドバイス、さらにはリアルタイムアンケートアプリを使った企画、懇親会を含めて、総じて懇談の様子が伝わってきました。沖縄県で医療を行う立場として、私も新研修医の皆さんのご活躍に期待しています。

次は田名 毅会長からの琉球大学医学部生への白衣贈呈式についてです。沖縄県医師会では初の試みようですが、クリニカル・クラークシップの臨床実習前に医学部の学生へ白衣の贈呈を行った報告がありました。個人的には大変粋なお計らいだと感じます。田名会長のご挨拶にもあります「白衣は医療の現場における（使命）を象徴するものであり、患者さんとの信頼関係を築くための第一歩である。」というメッセージが伝わったのではないかと感じます。学生の皆さんも決意を新たにされたのではないのでしょうか？

それから當間隆也理事の「令和7年度学校保健講習会に参加して」に続きます。大きなテーマとして下記の4つがフォーカスされています。(1) 学校保健施策の動向 (2) 機器による側弯症健診 (3) 眼科・耳鼻咽喉科学校健診の現状 (4) 心の健康。脊柱側弯症検診については小学生の際に自分自身が一度疑われたことがあり（結局は違ったようです）、興味を持って読ませていただきました。現在は着衣でも検診可能な機器があるとのこと、その実用化が気になるところです。

次は久貝忠男理事の令和7年度 都道府県医師会広報担当連絡理事協議会についてです。年齢による広報媒体手段の親和性の違いが改めて浮き彫

りになり、多角的な広報活動の難しさが述べられています。その中で、京都府医師会が取り組まれている「KMA.com」に興味を惹かれました。「新研修医総合オリエンテーション」で研修医全員に公式 LINE から「KMA.com」に無料で入会してもらい、その後登録者に定期的な情報発信をして繋がりを強化するものです。今後の成果は注目に値します。

また、生涯教育セミナーでは、琉球大学整形外科 神谷武志先生より「先天性上肢形成不全児に対する筋電義手診療について」のレクチャーがありました。先天性四肢形成不全の分類も勉強になりましたが、筋電義手に関する現状や今後、現在の琉球大学病院での取り組みなどについて、大変わかりやすく記載されています。その中で、私が一番心に残ったのは、本人の身体的・心理的・社会的発達に多面的な影響を与える疾患のため、適切な時期に、適切な支援と情報提供を行うことが重要であるという点でした。

インタビューコーナーでは、広報委員の間仁田守先生が沖縄県立中部病院院長 天願俊穂先生にお話を伺っています。コミュニケーションの重要性、病院経営の問題、診療看護師（NP）の活用、人材確保の問題など、幅広い内容が盛り込まれています。天願先生は今月より広報委員会をまとめられるお立場になると伺っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に月間行事のお知らせとして、沖縄県立中部病院 山田航希先生より「世界肝炎デーに寄せてー 肝がんの現状と課題 ～予後は改善したか？～というタイトルで、沖縄県における肝がんの疫学、治療の変遷と予後、現状の課題についてご報告がありました。肝がんの背景となる肝疾患の変遷、治療法の考え方の変化、今後の課題など、大変勉強になりました。

以上、2025年7月の沖縄県医師会報をダイジェストでお伝えしました。自身に関連する内容も多く、改めて考えさせられる良い機会となりました。琉球大学病院の移転からは既に半年が経過しています。より一層地域医療に貢献できるように、地域連携を心がけて行きたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

広報委員 西江 昭弘